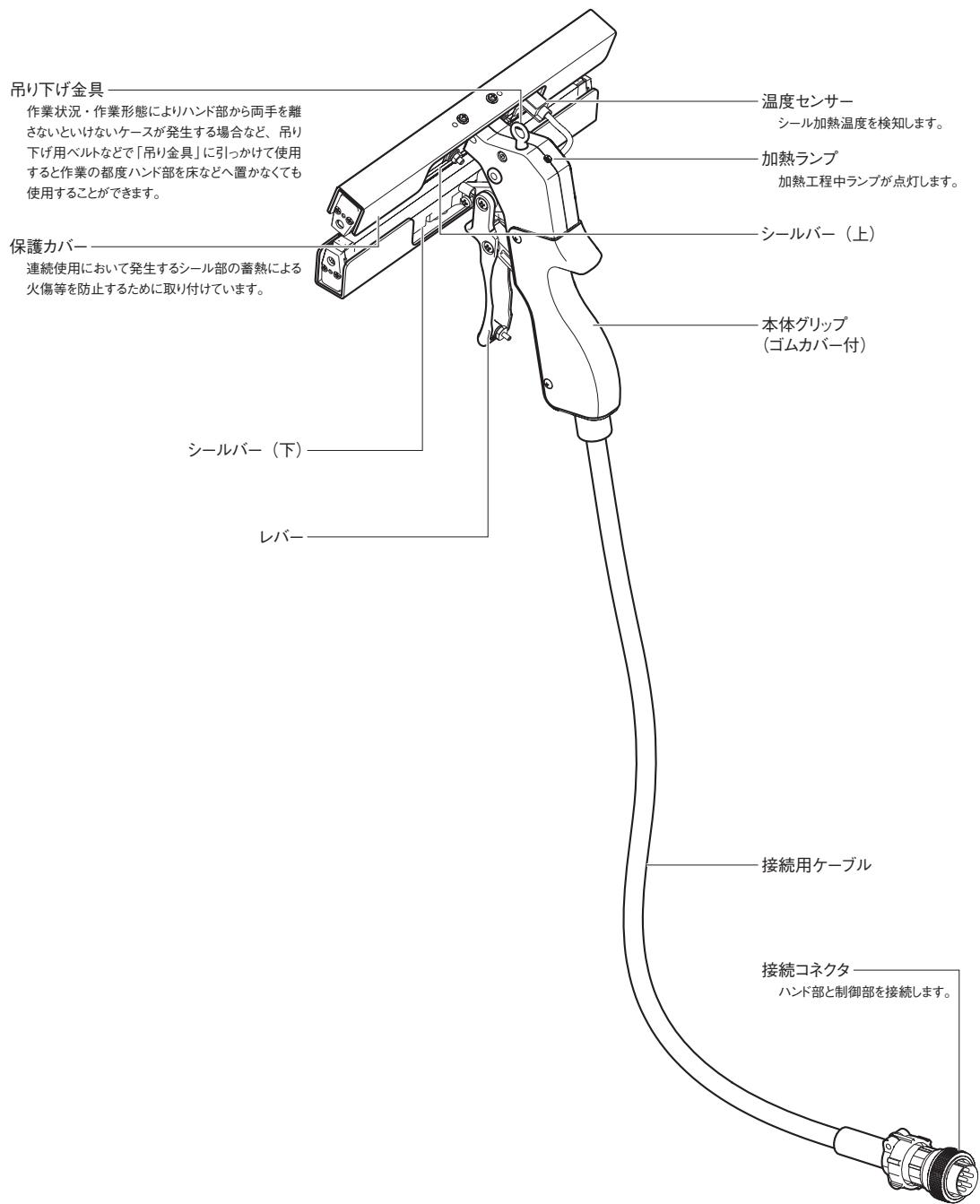
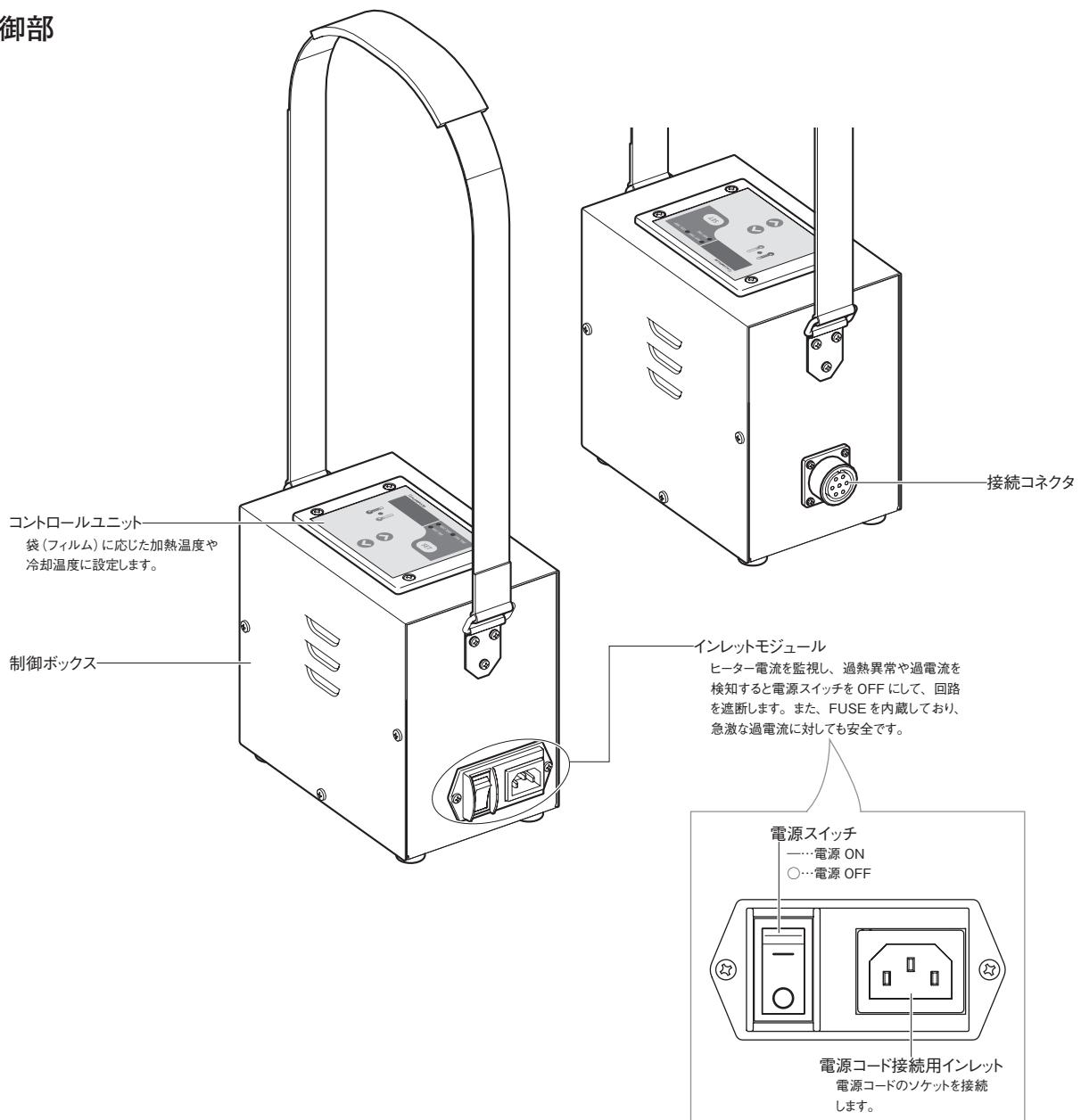


5 各部の名称とはたらき

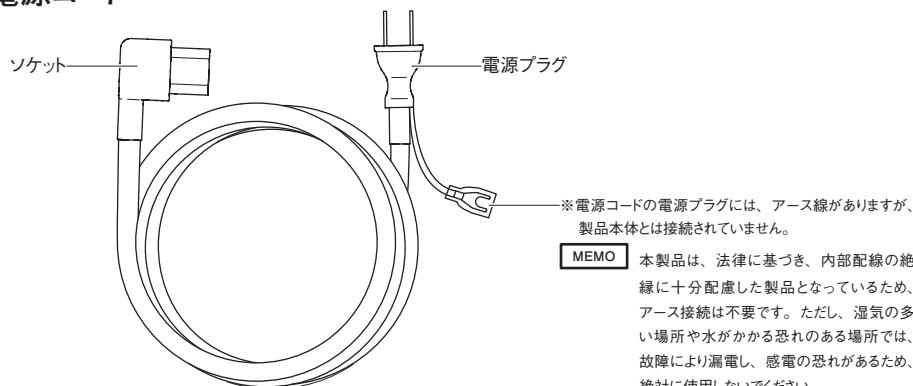
ハンド部



制御部



電源コード



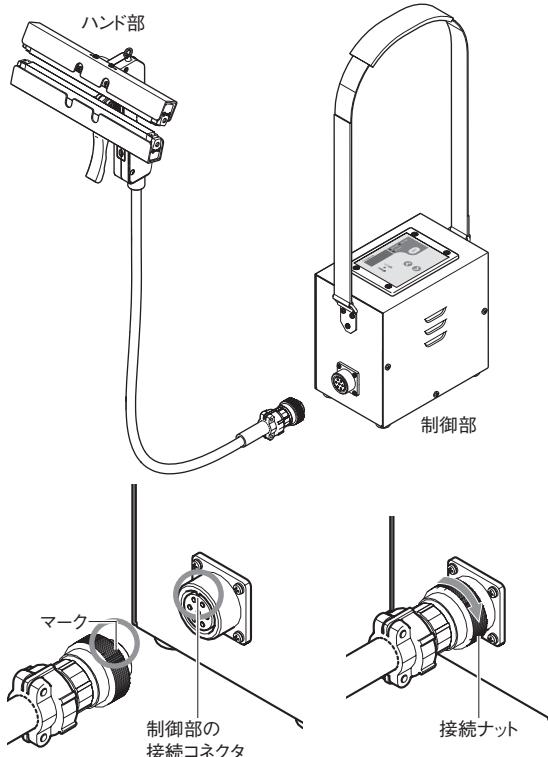
MEMO 本製品は、法律に基づき、内部配線の絶縁に十分配慮した製品となっているため、アース接続は不要です。ただし、湿気の多い場所や水がかかる恐れのある場所では、故障により漏電し、感電の恐れがあるため、絶対に使用しないでください。

6 正しい使い方

この製品を使用する時は以下の「正しい使い方」をよくお読みいただき、お使いください。
以下の方法以外の操作方法で使用されますと故障の原因となり、たいへん危険です。

6-1 ハンド部の取り付け

工場出荷時に制御部からハンド部を取り外して梱包しています。



- 1 ハンド部の接続コネクタを制御部の接続コネクタに差し込みます。制御部の接続コネクタにある溝とハンド部の接続コネクタのマーク部を一致させて差し込んでください。
- 2 差し込んだら、ハンド部のコネクタについてある接続ナットを回して、接続を確実にしてください。

6-2 電源コードの接続

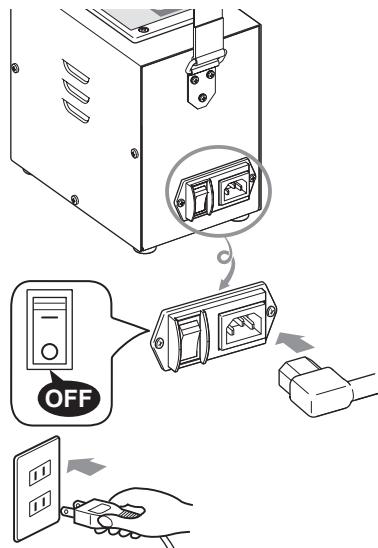
- 1 電源コードのソケットを右イラストを参照して、制御部の電源コード接続用インレットに接続してください。
- 2 電源コードの電源プラグを「1 仕様」(→ P.5) で掲載しているお買い上げ製品の電圧・電力がとれるコンセントに確実に根元まで差し込んでください。



警告 電源コードは必ず附属のものを使用してください。規定の容量に合わない場合、火災などの危険があります。

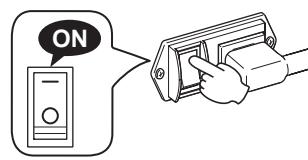
注！

電源スイッチは OFF の状態で、電源コードのソケット、電源プラグを接続してください。
電源スイッチが ON の状態で電源コードを接続すると、電源スイッチ内部の安全回路がまだ動作していないため、一旦 OFF になりますが、異常ではありません。



6-3 電源スイッチ ON

制御部の電源スイッチを押して ON 状態にするとコントロールユニットのディスプレイ表示が点灯します。



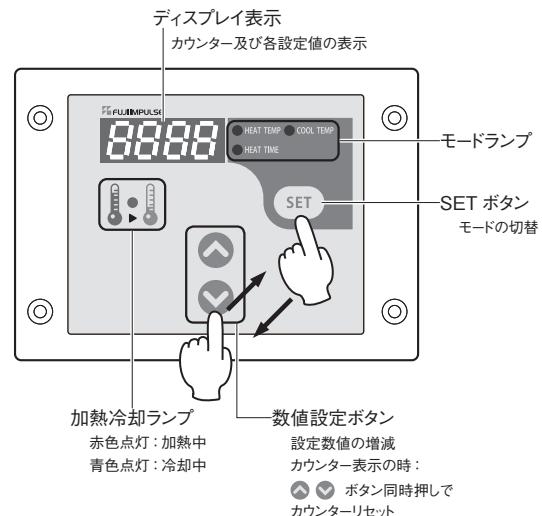
6-4 コントロールユニットの設定

コントロールユニットで加熱温度・加熱時間（加熱温度保持時間）・冷却温度を設定します。

袋（フィルム）の材質、厚さなどにより適切な設定値は変わりますので、異なる袋（フィルム）を使用される時はその都度設定してください。

SET ボタンを押すと、カウンター数（シール数）→加熱温度設定値→加熱時間設定値（加熱温度保持時間）→冷却温度設定値の順にディスプレイ表示に呼び出せます。

呼び出されたモードはモードランプが点灯します。どのモードランプも点灯していない時はカウンター数（シール数）が表示されている時です。



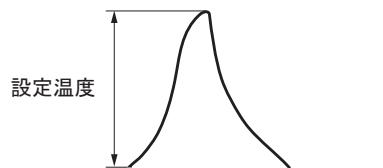
6-4-1 加熱温度の設定

- SET ボタンを押し、モードランプの HEAT TEMP が点灯していることを確認します。
- シールする袋（フィルム）に合わせて加熱温度を設定します。
- ⒶⒷ ボタンで数値を加減して設定します。
[加熱温度の設定範囲: 60 ~ 180°C]
- 使用される袋（フィルム）の材質により適切な加熱温度は異なります。
- シールができる最低の加熱温度に設定してください。
作業速度が上がり、部品の無駄な消耗を抑えます。

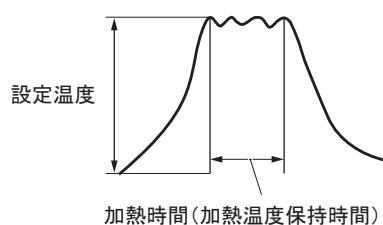
6-4-2 加熱時間(加熱温度保持時間)の設定

- SETボタンを押し、モードランプの HEAT TIME が点灯していることを確認します。
- 加熱時間(加熱温度保持時間)を設定します。
▲▼ボタンで数値を加減して設定します。
[加熱時間の設定範囲: 0.0 ~ 2.0 秒]
- 温度制御における加熱時間(加熱温度保持時間)とは設定された温度を維持させる時間のことと、通常は、加熱時間(加熱温度保持時間)を設定しなくても(加熱時間(加熱温度保持時間)を 0.0 秒にしても)シールはできます。
袋(フィルム)に厚みがあり、加熱温度を上げてもシールができない場合やシールができても袋(フィルム)がダメージを受けている場合のみ加熱時間(加熱温度保持時間)を設定する効果が期待できます。

加熱時間(加熱温度保持時間)を設定しない場合の加熱温度測定グラフの軌跡



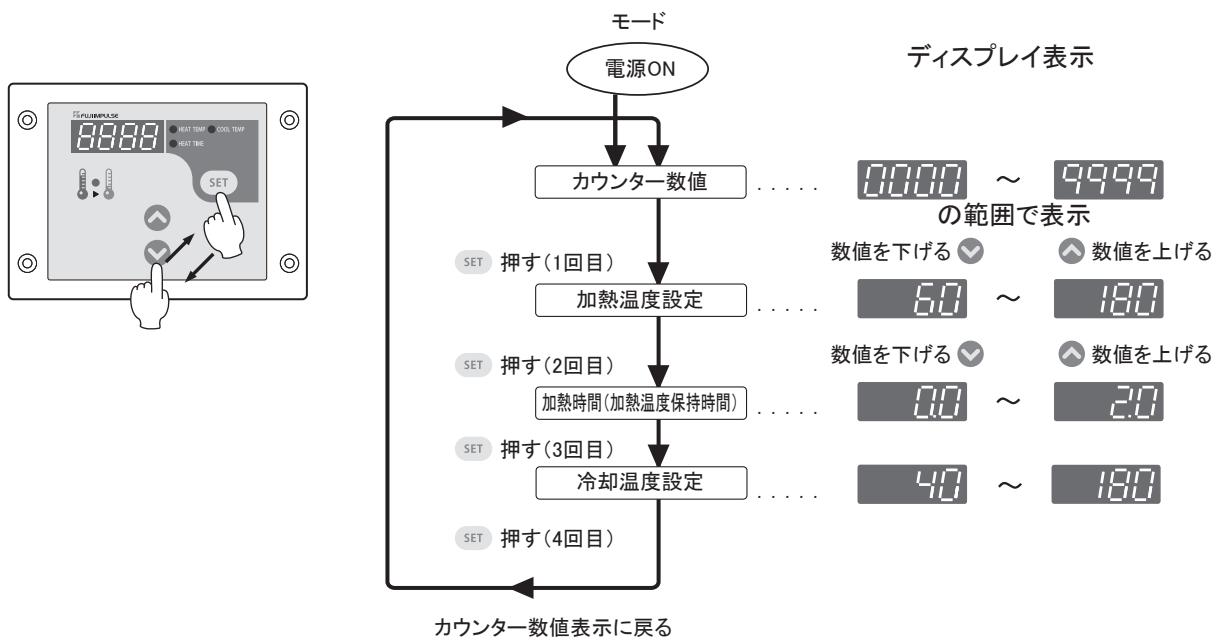
加熱時間(加熱温度保持時間)を設定した場合の加熱温度測定グラフの軌跡



6-4-3 冷却温度の設定

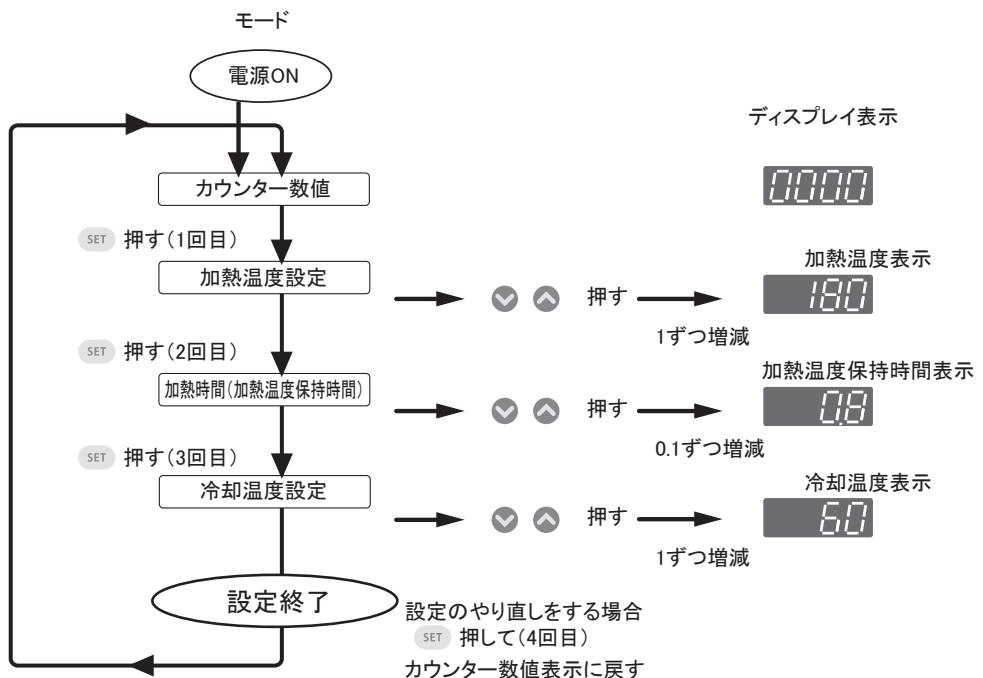
- SETボタンを押し、モードランプの COOL TEMP が点灯していることを確認します。
- 冷却温度の設定をします。
▲▼ボタンで数値を加減して設定します。
[冷却温度の設定範囲: 40°C~加熱温度設定値]
- 冷却温度は充分にとってください。

6-5 各モードの設定手順



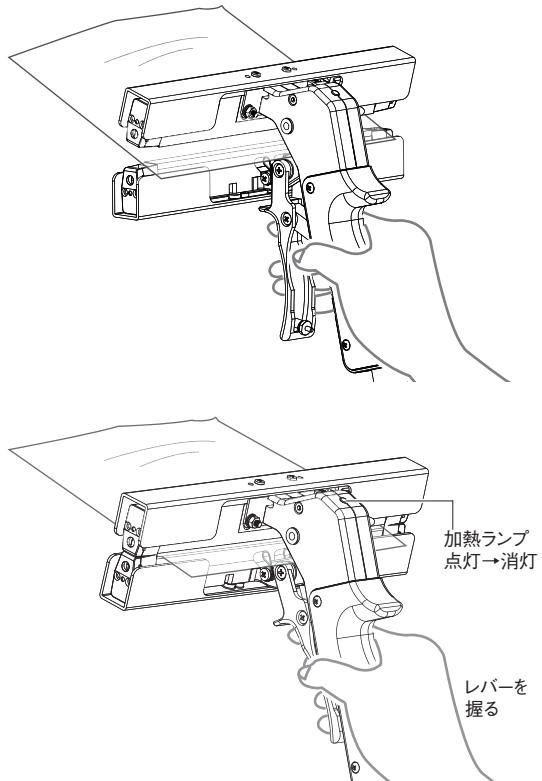
各モードの設定手順例

設定数値例: 加熱温度 180°C 加熱時間(加熱温度保持時間) 0.8 秒 冷却温度 60°C



6-6 レバーを握りシールを行う

シール部に袋(フィルム)をセットします。



本体のレバーを引き(握り)ます。

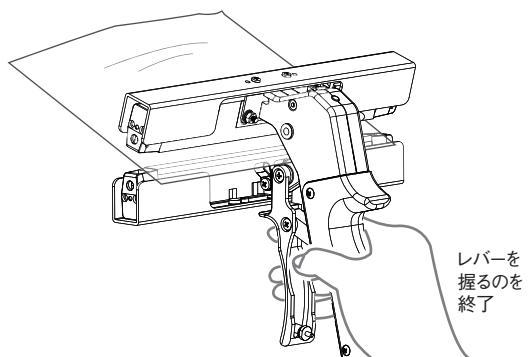
レバーを引き(握り)ますと本体部の加熱ランプが点灯します。

設定加熱温度に到達すると本体部の加熱ランプが消灯します。

6-7 シールのできあがり

ヒーター部温度が設定冷却温度まで下がりますとブザーが鳴りますのでブザーを目安にしてレバーを引く(握る)のを終了し、シール部を開口して袋(フィルム)を取り出します。

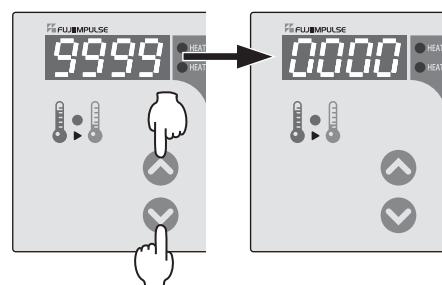
注! 袋(フィルム)により冷却温度は異なります。ブザーを目安にしてください。



6-8 カウンターのリセット

シール作業を行うとカウンターの数値が1ずつ0000～9999の範囲で増えています。

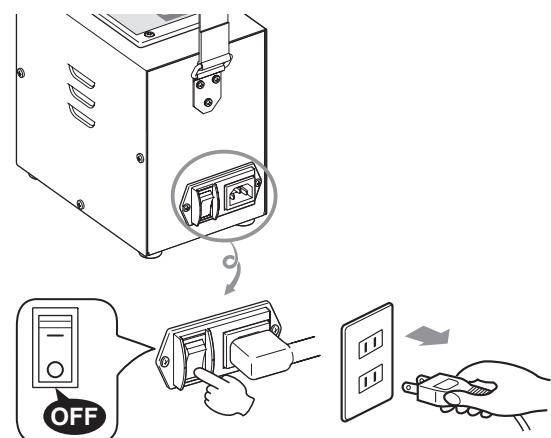
数値を0000に戻したい場合は、カウンター数(シール数)を表示しているモードでの状態で と ボタンを同時に押してください。



6-9 電源スイッチを OFF にする

作業が終了したら、必ず電源スイッチを押して OFF にしてください。

長時間使用されない時は制御部からハンド部を取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。



6-10 作業終了後の点検

終了したら、清掃を行い、センタードライテープやヒーター等の部品が傷んでいないか点検を行ってください。

傷んでいるようであれば「7 消耗部品の交換方法」
(→ P.18) を参照して、交換を行ってください。